

**日本作物学会四国支部会報原稿作成要領**  
**(2007年11月改正)**

1. 和文論文は原則として表題、著者名(所属機関名)、緒言、材料と方法、結果、考察、摘要、謝辞、引用文献の順とする。英文論文は原則として、Introduction, Materials and Methods, Results, Discussion, Summary, Acknowledgement, Referencesの順として、和文摘要をつける。
2. 和文表題に続けて英文の表題、著者名、所属機関名を記入する。
  - ・和文例；

米の食味評価に関する傾向調査

楠谷彰人\*・豊田正範・上田一好・浅沼興一郎・中村承禎  
(香川大学農学部)

Tendency of Palatability Evaluation on Rice  
Akihito KUSUTANI\*, Masanori TOYOTA, K. UEDA, Koh-ichiro ASANUMA and  
Takuyoshi NAKAMURA (Fac. Agr. Kagawa Univ. Mikicho, Kagawa, 761-0795, Japan)

\_\_\_\_\_ スモールキャピタルを赤字で指定する。

\_\_\_\_\_ イタリックを赤字で指定する。

年 月 日受理。\*連絡責任者(〒761-0795 香川県三木町香川大農学部。  
kusu@ag.kagawa-u.ac.jp, fax 087-891-3021)。

(ここは印刷時1ページ目左下の脚注となる。年月日の数字は空白で可。連絡先にはE-mailまたはFax番号入力)

- ・英文例；

Tendency of Palatability Evaluation on Rice  
Akihito KUSUTANI\*, Masanori TOYOTA, K. UEDA, Koh-ichiro ASANUMA and  
Takuyoshi NAKAMURA (Fac. Agr. Kagawa Univ. Mikicho, Kagawa, 761-0795, Japan)

Accepted \*Corresponding author(kusu@ag.kagawa-u.ac.jp, fax 087-891-3021).

(ここは印刷時1ページ目左下の脚注となる。Accepted.の後の受理日は空白で可。連絡先にはE-mailまたはFax番号入力)

3. 原稿の作成はA4版用紙を使用する。上下左右に3cm以上の余白をとり、原則として1ページ33行、1行22字とする(刷り上がりの1ページ分は33行×44字=1452字)。英文論文は日本作物学会発行のPlant Production Scienceの原稿作成要領に従う。
4. 英文論文の和文摘要は表題、著者名(所属機関名)、摘要本文の順とする。

- ・例；

和文摘要

13Cと15Nのダブルトレーサー法による水稻の葉から根系への炭素  
と窒素の転流の研究

岡野邦夫\*・巽二郎・米山忠克・河野恭広・戸塚績  
(国立公害研究所・名古屋大学農学部・農業技術研究所)

根から葉へ送られる窒素の意義を明らかにする目的で、穂ばらみ期の水稻の最上位葉に13C標識の炭酸ガスと15N標識の二酸化炭素を同時に取り込ませ、13Cと15Nの体内移動および節位別に分級した根中での・・・

<sup>13</sup>C, <sup>15</sup>Nなどの上付きは“V”で赤字指定する。

5. 本文の電子ファイルは Windows で読み取れる MS-DOS テキストファイル形式または Word 文書ファイル形式で作成する. 図表は Excel または Word で図の縦・横軸の説明, 凡例および表の表題, 注も含めて直ちに製版できるように作成するのが望ましい. 写真は TIFF 形式または JPEG 形式ファイルが望ましいがプリント写真でも良いものとする.
6. 図表の挿入位置は原稿右欄外余白に赤字で指定する.
7. 以上の他, 用語, 書体, 引用文献の記載, 図表の作成等について, 和文論文は最近の日本作物学会紀事, 英文論文は Plant Production Science の原稿作成要領に従う.